

個室と多床室の混在型特養を新設 住民ニーズに応えるべく

ケーススタディ／医療法人の地域展開

社会福祉法人恒久福祉会(千葉県袖ヶ浦市)

3



の倍にも相当するケースも生まれ、特養が開設されたが、空きが埋まらない状態が続いており、その理由として入所費用の高さが指摘されているのである。「制度として、地域密着型を謳うのであれば、施設のあり方も全国画一的ではなく、地域の特性を反映させるべきでは」——こう考えた恒久会では報酬は低くてもあえて4人部屋を設けることで、地域に多くを占める経済的に弱い立場の要介護高齢者の受け皿づくりを打ち出したのである。

もつともその実現には行政の理解が必要であり、「木更津市を含む周辺四市の特養、老健、在宅の利用実態、経営状況などに関するさまざまなデータを収集、比較などを行ないながら説得にあたった」(山口氏)。こうした努力に加え、同市のがん対策課は前述した新型特養の入所状況の厳しさや市域に住む高齢者の経済事情を把握していたことから理解を得、その結果、すべてを多床室にという当初の構想こそ実現できなかったものの、4人部屋5室の確保ができ、個室との「混在型」での認可を得るに至つたといふ。

恒久会理事山口和子氏はその背景として、同地の地域特性をあげる。「地域住民は半農半漁が中心。しかも漁業はアサリ、ノリなどが中心で収穫も限定的で、農業の経営規模も大きくないため、生活に余裕があるとはいがたい」(山口氏)。周知の通り、06年10月の介護保険改正により、特養の入所者は食費の全額自己負担に加え、ユニット型の新型特養では居住費の負担が求められるようになった。そのため、入所者の自己負担額は、従来規模で開設、後にこちらも100床にまで拡大、ともに満床が続いている。

そうしたなか、今年5月1日に「特別養護老人ホーム『さざなみ苑』」を開設した。同施設は、袖ヶ浦市に隣接する木更津市の東京湾アクアラインの接岸地にほど近い立地に誕生。恒久会の運営する木更津事業所(クリニック、老健、訪問看護ステーション、在宅介護支援センター)と連携して構成)からも至近の距離だ。

平屋建ての同施設は定員29人だが、特養されるのは個室で構成する新型特養ではなく、9室の個室のほかに多床室(4人部屋)を5室設けている点だ。

なぜこのような構成としたのか。

恒久会理事山口和子氏はその背景として、同地の地域特性をあげる。「地域住民は半農半漁が中心。しかも漁業はアサリ、ノリなどが中心で収穫も限定的で、農業の経営規模も大きくないため、生活に余裕があるとはいがたい」(山口氏)。周知の通り、06年10月の介護保険改正により、特養の入所者は食費の全額自己負担に加え、ユニット型の新型特養では居住費の負担が求められるようになつた。そのため、入所者の自己負担額は、従来規模で開設、後にこちらも100床にまで拡大、ともに満床が続いている。

恒久会理事山口和子氏はその背景として、同地の地域特性をあげる。「地域住民は半農半漁が中心。しかも漁業はアサリ、ノリなどが中心で収穫も限定的で、農業の経営規模も大きくないため、生活に余裕があるとはいがたい」(山口氏)。周知の通り、06年10月の介護保険改正により、特養の入所者は食費の全額自己負担に加え、ユニット型の新型特養では居住費の負担が求められるようになつた。そのため、入所者の自己負担額は、従来規模で開設、後にこちらも100床にまで拡大、ともに満床が続いている。

恒久会理事山口和子氏はその背景として、同地の地域特性をあげる。「地域住民は半農半漁が中心。しかも漁業はアサリ、ノリなどが中心で収穫も限定的で、農業の経営規模も大きくないため、生活に余裕があるとはいがたい」(山口氏)。周知の通り、06年10月の介護保険改正により、特養の入所者は食費の全額自己負担に加え、ユニット型の新型特養では居住費の負担が求められるようになつた。そのため、入所者の自己負担額は、従来規模で開設、後にこちらも100床にまで拡大、ともに満床が続いている。



理事 山口和子氏

建築コストを抑えることが入所者の負担減にもつながるとして、「躯体に薄板軽量形鋼を採用することで、建物の軽量化による基礎工事の削減や構造体自体のコストダウンを図った」(新環境設計設計部課長 大澤昌弘氏)といふ。さらに今回多床室の導入については、全室個室の場合に比べ「床面積で10~20%の削減ができた」(大澤氏)ため、これも建築コスト削減に有利に働いた点は見逃せない。

その一方、建築単価だけでみると複層階にした方が落としやすいが、入所者の利便性や運営上の効率面などに配慮し平屋建てを採用。動線面でもフロア中央に介護職員などのステーションを配し、ユニットおよび多床室の双方に視線が届き効率のよい管理ができるよう配慮(別図)。大澤氏にとつても個室・多床室混在型の設計は初めてとなつたが、「面積を最小限に抑える、職員の視線が効くよう死角をつくらないなど、施主さん側に明確なビジョンがあつたため、設計上の苦労は少なかつた」という。意匠も華美に陥らず「和」をモチーフに自然素材を活かしたシンプルなものに仕上げ、効率とともに「住まい」としての快適性も十分確保したものとなつてゐる。

料金面、ハード面で好調な入所率 特養としての選択肢を広げる

入所状況をみると、5月1日の開設だ

が、すでに満床。第一に地域ニーズを見据えた利用料の低減化が奏功したのはいいまでもない。別掲の料金表にあるとおり、多床室を基本に個室の料金も抑える設定がなされている。第二に、事業主体の背景にある医療法人の存在も大きい。地域で長く医療に携わってきたことによう信頼感に加え、先述のように至近距離にクリニックをもち、入院機能のある山口医院も控えていることは入所者や家族に安心を生む要因となつてゐる。

一方、恒久会にとつては、今回の特養の整備で「従来欠けていた『看取り』が可能になり、最期までのケアを提供できる態勢ができた」(山口氏)ことになる。在宅での介護・看護が容易でない同地域の実状を考えると、施設で一貫したサービスを受けられることの安心感は大きい。同士のコミュニケーションができないよい」「個室のように寂しくない」など、自己負担額の多寡という経済的側面だけでなく、積極的に評価する声が少なくないことがわかつたといふ。確かに大部屋といえども昔のようなプライバシーのない空間ではなく、収納家具兼用の仕切りをうまくレイアウトすることでお互いの存在を感じさせながらも視線はカットするなど、コミュニケーションとプライバシーを両立させる工夫が施されている。

現在、医療法人恒久会としては、山口医院の増改築に取り組んでいる。建物を地上3階建てとし、その3階部分に24床のシヨートステイを開設する(今年12月完成予定)。これも地域ニーズを反映したものといい、さらに医療・介護の連携の充実が図られるものと期待される。

インテリアも家具や照明器具など家庭用に適した方針で落としやすいが、入所者の利便性や運営上の効率面などに配慮し平屋建てを採用。動線面でもフロア中央に介護職員などのステーションを配し、ユニットおよび多床室の双方に視線が届き効率のよい管理ができるよう配慮(別図)。大澤氏にとつても個室・多床室混在型の設計は初めてとなつたが、「面積を最小限に抑える、職員の視線が効くよう死角をつくらないなど、施主さん側に明確なビジョンがあつたため、設計上の苦労は少なかつた」という。意匠も華美に陥らず「和」をモチーフに自然素材を活かしたシンプルなものに仕上げ、効率とともに「住まい」としての快適性も十分確保したものとなつてゐる。

料金面、ハード面で好調な入所率
特養としての選択肢を広げる

地域密着型特別養護老人ホーム「さざなみ苑」の施設概要		
所在地	千葉県木更津市中島2357-1	
事業主体	社会福祉法人恒久福祉会	
開設日	2008年5月1日	
構造・規模	薄板軽量形鋼造・平屋建て	
敷地面積	1,699.38m ²	
延床面積	904.82m ²	
入所定員	29人(個室9人、4人部屋5室)	
設計	株式会社新環境設計	
構造設計・部材供給	株式会社シルバーウッド	

■別表 施設利用料(1日当たりの自己負担分)

	個室	多床室
要介護度1	657	639
要介護度2	728	710
要介護度3	798	780
要介護度4	869	851
要介護度5	929	921

*食費 1,600円(日) *居住費 500円(日)
※加算料金 ①重度化対応算10円 ②管理栄養士配置加算12円 ③栄養マネジメント加算12円 ④初期加算30円(入所日から30日間限定) ⑤外泊加算320円(1ヶ月に6日を限度) ⑥経口移行加算28円 ⑦療養食加算23円 ⑧退所前後訪問相談援助加算460円(回)(2回を限度) ⑨退所時相談援助加算400円(回)(1回限り) ⑩退所前連携加算500円(回)(1回限り) ⑪看取り介護加算(I) 160円(死亡前30日を限度)

※特記のない項目はすべて1日当たり